**低学年**

○　主題名　　あたたかい心（Ｂ　親切、思いやり）

○　教材名　　くりのみ

○　ねらい　　相手のことを思って助けることのよさに気づき、思いやりある温かい心で親切にしていこうとする心情を育てる。

○　学習指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動（主な発問と予想される児童の反応） | 具体的な指導・援助 |
| 導入３分 | １．教材の場面を示し、教材導入をする。  ・提示された動画を基に、冬の森の様子を出し合い、きつねとうさぎが食べ物がなくて困っていることを知る。  ◇冬の森の様子を具体的にイメージするために、大きな画面で動画を見たり、大きな写真を使ったりすると、物語の場面の様子を子どもたちに具体的に伝えることができます。 | ・物語の背景を押さえるために、冬の森の動画を用意し、提示する。  ・登場人物のきつねとうさぎを紹介する。 |
| 展開  37分 | ２．「くりのみ」の人形劇を観て、考えを出し合う。  ◇教室の前を広く使って動作の大きい劇をすると、話の内容が理解しやすくなります。す。  ◇本時は、授業後も、人や動物の考えを想像できるアイテムとして日常的に人形を活用することを想定しています。  ○きつねは、どんな気持ちでどんぐりを落ち葉で隠したのでしょう。  ・どんぐりを独り占めするぞ。  ・誰にも渡さないぞ。あとで、たくさん食べたい。  ・誰にもわからないようにして、後で食べよう。  ○きつねは、うさぎに１つのくりのみをもらったとき、どんなことを思ったのでしょう。  ・ぼく、本当はどんぐりを食べたんだ。それなのに、嘘をついてくりをもらってしまってなさけない。  ・ぼくは自分のことしか考えてなかったのに、うさぎさんはぼくのことを考えてくれた。  ・うさぎがやさしくしてくれたのでジーンとする。  ・うさぎさんは自分がこまるのに、ぼくにくりのみをくれるなんて、しんせつだなあ。 | ・人形を用いて教材内容を話す。  ・本時は、きつねの気持ちになって考えることを伝える。  ・発表した児童のネームプレートを貼り、自分の意見が誰の意見と同じか違うかを、分かるようにして、自分の気持ちに気づかせる。  ・教室の前で、きつねとうさぎの役割演技をし、親切にするよさを感得できるようにする。  ・うさぎを教師が、きつねを児童が行う。  ・「正直、誠実」に流れないために、「うさぎは、きつねのことをどう思ったか」と問いかける。 |
| ・２つしかないくりのみをくれてありがとう。嘘をついてごめんね。  ◇親切にするよさを感得できるよう、児童はきつね役としています。教師が、「きつねさん、どうして泣いているの？」と投げかけ、きつねの気持ちを言わせるようにします。 |  |
| ３．自分の経験を振り返る。  ○困っている人を助けたことを話しましょう。  ・勉強で、分からなくて困っている友だちにどうしたらいいかを教えた。  ・道に迷っている人がいたので、行き方を教えた。  ○助けたとき、相手の人はどんな様子でしたか。それを見てどんな気持ちになりましたか。  ・うれしそうだった。  ・笑顔になった。  ・「ありがとう」と言ってくれた。うれしかった。  ・にっこり笑って、頭をなでてくれた。またやろうと思った。 | ・学級で困っている子を助けたり、地域・家庭で困っている人を助けたりした事例を２つ程度紹介することで、自己を見つめやすくする  ・「助けた相手は喜んでいたかな。」と問いかけ、相手の表情や言ったことなどを思い出させる。また、それを見てどんな気持ちになったかも問いかける。 |
| 終末５分 | ４．教師の話を聞く  ◇ねらいにふさわしい話をします。  本時は、「相手のことを思って助けることのよさに気づき、温かい心で親切にしていこう」と子どもたちが思える話にします。複数の教師で、話題を探すことも工夫の一つです。 |  |

冬の森の画像をテレビに映しておくのも工夫の１つです。

＜板書計画＞

あいてのことをおもって

だい○○かい

どうとく

けがをした

ともだちに

絵

くりのみ

二つしかないくりのみを１つもらったとき

うさぎは二つのくりのみをみつける

どんぐりをおちばでかくしたのは

**うれしそう**

・うそをついてごめんね

・うさぎさん、やさしいな

・うれしいなあ

絵

べんきょうがわからないともだちに

・じぶんだけのものにしたい

・だれにもわたさない

・あとでたべる

おかあさん

のかたをも

んだ